

## 2009 年度 JAMS 会員総会議事録

事務局

2009 年 12 月 12 日(土)、大阪市立大学学術情報総合センターにおいて 2009 年度日本マレーシア研究会 (JAMS) の会員総会が行われた。

### 【議長選出】

西芳実会員が議長に選出された。

### 【報告事項】

担当の各委員から活動内容に関する報告が行われた。

#### 1. 運営委員長

西尾運営委員長より、運営委員長のもとに学会化検討ワーキンググループを置き、その最終答申の内容は金子座長から後に報告されることが報告された。

#### 2. 事務局

##### 会計

坪井委員より、配布資料をもとに 2009 年度の会計執行状況と執行見通しが示された。

##### 会員情報

篠崎委員より以下の報告がなされた。

#### (1) 会員数

2008 年度末 186 名より 5 名増え(内訳は入会者が 6 名、退会者が 1 名)、2009 年 12 月 11 日の時点で、会員数は 191 名である。

#### (2) 権利の停止および除籍

32 名の会員が権利の停止の対象者(2007 年度以降の会費滞納者)となっている。

#### (3) 名簿の発行

2009 年 6 月 30 日時点の会員情報に基づき、

2009 年 7 月付で会員名簿を発行した。

#### 3. 広報局

山本委員より、会報に関して、会報 2 号を発行して年度内にあと 1 号発行する予定であることが報告された。

同じく山本委員より、ウェブサイトに関して、2008 年 4 月にリニューアルされた JAMS ウェブサイトは各地区活動や関連研究会等のお知らせの掲載を着実に続けていること、「マレーシア世界の窓」コーナーに「ナジブ氏が第 6 代首相に就任」「ヤスミン・アファド監督が亡くなる」の 2 つの記事を掲載したこと、社会連携フォーラムのページを新設し、これまでに行われた 3 回の社会連携フォーラムに関する情報を掲載していることが報告され、来年度も研究会等の情報の迅速な掲載や見やすいウェブサイト構築を行いたく、JAMS ウェブサイトに対する意見や要望があれば広報担当運営委員にご一報いただきたいとの呼びかけがなされた。

#### 4. 社会連携ウイング

川端委員より社会連携フォーラムの開催に関して以下の報告がなされた。

第 2 回社会連携フォーラムは、2009 年 7 月 18 日、立命館アジア太平洋大学において、「社会経験に根ざした研究を求めて: 外交、教育、企業」をテーマとして実施された。

第 3 回社会連携フォーラムは、2009 年 11 月 27 日、東京大学駒場キャンパスにおいて、「外交実務と地域研究の連携の可能性: 発展的な協働関係を求めて」をテーマとして実施された。

## 5. 研究連携ウイング

### 大会

金子委員より、2009 年度研究大会は多和田会員のご協力により大阪市立大学で開催したことが報告された。

### 地区活動

#### (1) 関東地区

金子委員より関東地区の活動が以下のように報告された。

第 1 回研究会 (2009 年 5 月 23 日、立教大学)  
高野さやか (東京大学大学院博士課程) 「インドネシアにおける ADR (裁判外紛争処理) の展開にみるアダット概念の現在」

#### (2) 関西地区

山本委員より関西地区の活動が以下のように報告された。

第 1 回研究会 (2009 年 4 月 24 日、京都大学)  
「マレー世界における「公正／正義」概念の展開」

趣旨説明: 西尾寛治

報告 1: 菅原由美 (天理大学) 「オランダ領東インドの抵抗運動における公正概念」

報告 2: 篠崎香織 (北九州市立大学) 「現代マレーシア政治におけるアディル概念」

コメント 1: 弘末雅士 (立教大学)

コメント 2: 宮脇聡史 (東京基督教大学)

また、第 2 回研究会の予定が紹介された。(以下は会員総会後に実施された研究会のデータによる。)

第 2 回研究会 (2010 年 1 月 30 日、京都大学)  
「マレーシア・インドネシアの華人研究の動向とプラナカン概念」

趣旨説明: 山本博之 (京都大学)

第 1 部 マレーシア

報告 1: 市川哲 (立教大学) 「現地化からトランスナショナリズムへ: マレーシア華人の文化人類学的研究動向」

報告 2: 黄蘊 (関西大学) 「もう1つの華人社会: マレーシアにおける英語話者華人の宗教実践と彼らの生活世界」

報告 3: 篠崎香織 (北九州市立大学) 「国民としての揺るぎない自信: ネーション・ビルディングをめぐる研究動向」

コメント: 片岡樹 (京都大学)

第 2 部 インドネシア

報告 1: Jafar Suryomenggolo (京都大学)  
「Chinese Workers and their Organizations during the Indonesian Revolution, 1945-1950」

報告 2: 北村由美 (京都大学) 「ポスト・スハルト期華人文化の行方: 儒教と表象に関する事例から」

報告 3: 津田浩司 (日本学術振興会特別研究員 PD) 「自己(再)定義を迫られるインドネシアの寺廟: 東・中ジャワの調査から」

コメント: 貞好康志 (神戸大学)

### 連携研究会

#### (1) 日本マレー世界研究会 (JA'AM)

西尾運営委員長 (JA'AM 世話人) より、今年度の JA'AM の活動が以下のように報告された。

第 1 回研究会 (2009 年 8 月 14 日、東京大学)  
報告: 山本博之 (京都大学) 「1 マレーシア」と国民戦線 (BN) 体制のゆくえ: サバ州の最近の政治状況を中心に」

#### (2) クアラルンプール地区研究会

クアラルンプール地区研究会の活動内容が西尾運営委員長の代読により以下のように報告された。

第 1 回研究会 (2009 年 8 月 9 日、国際交流基

金クアラルンプール)

報告:伊賀司(神戸大学大学院博士課程)「東南アジアにおいてインターネットは社会と政治にどのような影響を与えているのか:インドネシアとマレーシアの事例から」

## 6. その他

金子芳樹学会化ワーキンググループ座長より、2010 年 4 月をもって JAMS の名称を日本マレーシア研究会から日本マレーシア学会とすること、運営委員会に学会誌編集委員会を置いて学会誌を刊行すること、これに伴って一般会員の年会費を 1000 円値上げすることなどの答申を運営委員長に対して行ったことが報告された。また、この内容に基づいた規約の改正などは審議事項の議題として用意されていることが紹介された。

## 【審議事項】

### 1. 2008 年度の会計報告について

坪井会計委員より配布資料に基づいて 2008 年度の会計報告がなされ、永田監査より監査結果が報告され、いずれも承認された。また、坪井会計委員より 2009 年度会計の中間報告が行われた。

### 2. 来期の運営体制について

#### (1) 会長選挙報告

國谷選挙管理委員より、会長予定者選出に至る経緯が報告された後、宮崎恒二会員が次期会長予定者となったことが報告され、承認された。

#### (2) 運営委員および監査の選任

宮崎次期会長より、次期の運営委員長として西尾寛治会員が、監査として永田淳嗣会員がそ

れぞれ指名され、承認された。続いて、西尾次期運営委員長が宮崎次期会長にかわって次期運営委員を以下のように報告し、承認された。

運営委員長 西尾寛治

事務局

事務局長 山本博之

総務 西芳実

会計 坪井祐司

会員情報 篠崎香織

広報 山本博之

広報 新井和広

会誌編集委員会

編集委員長 金子芳樹

副委員長 穴沢真

編集委員 山本博之

社会連携ウイング

担当委員 川端隆史、井口由布、西尾寛治、山本博之

研究連携ウイング

大会 田村慶子

研究企画 黒田景子、富沢寿勇、吉村真子

関東地区 中村正志、金子芳樹

関西地区 多和田裕司

研究プロジェクト構想ワーキンググループ

担当委員 西尾寛治、山本博之

監査 永田淳詞

### 3. 学会化に関する規約の改正について

山本次期事務局長より、本会の名称を日本マレーシア研究会から日本マレーシア学会に変更することが提案された。なお、英文名称および略称は変更しないことと、本会はすでに学会に相当する活動を行っているために名称の変更に関

わる条項を除いて学会化による規約上の変更は伴わないことがあわせて提案された。これに関して、本会の会則、細則、会長選挙規定(以下、規約と総称)を以下のように改正することが提案され、承認された。なお、学会化の準備期間を必要とするため、以下の改正は2010年4月1日付けで施行される。

#### 会則

- ・会則の名称を「日本マレーシア学会会則」に変更する。
- ・第1条「日本マレーシア研究会」を「日本マレーシア学会」に変更する。

#### 細則

- ・細則の名称を「日本マレーシア学会細則」に変更する。
- ・第1条「日本マレーシア研究会」を「日本マレーシア学会」に変更する(2カ所)。

#### 会長選挙規定

- ・規定の名称を「日本マレーシア学会会長選挙規程」に変更する。
- ・第1条「日本マレーシア研究会」を「日本マレーシア学会」に変更する(2カ所)。

#### 4. 会誌の刊行について

金子次期会誌編集委員長より、本会の事業の1つとして会誌の刊行を行うこと、会誌は査読誌とし、刊行頻度は年1回とすること、会誌の刊行を担当するために運営委員長のもとに会誌担当の運営委員から成る会誌編集委員会を置くこと、会誌編集委員会の活動は会誌編集委員長が統括することが提案され、承認された。

これに伴い、規約を以下のように改正することが提案され、承認された。

- ・会則第3条(3)「会報」を「会誌・会報」に変更する。
- ・細則第6条「会報」を「会誌・会報」に変更する。
- ・細則第11条第1項を「運営委員会は、事務局を構成する各運営委員、会誌編集委員および地区委員により構成される。」に変更する。

以上の改正は2010年4月1日付けで施行される。

また、金子次期会誌編集委員長より会誌の名称の候補として『マレーシア研究』などが挙げられた。議論の結果、会誌の名称は運営委員会に一任することが提案され、承認された。

#### 5. 学会の連合体への加盟について

山本次期事務局長より、2010年4月よりJAMSが日本学術会議、地域研究学会連絡協議会、地域研究コンソーシアムの3つの連合体に参加することが提案され、承認された。

#### 6. 業務の電子化について

山本次期事務局長より、本会の事務業務の効率化および経費削減のため、2010年4月1日から以下の4つの業務は原則として電子媒体によって行うこと、紙媒体での通知を希望する会員は会費と別に年間1000円を送料・手数料として納入することが提案され、承認された。

- ①研究大会・会員総会等に関する通知
- ②会報の発行
- ③会員名簿の発行
- ④その他、本会からの通知事項

これに伴い、細則第3条(会費)に以下の条項を加え、現行の細則第3条第2項を第3項とすることが提案され、承認された。「2.本会からの通

知を紙媒体で受け取ることを希望する会員(郵送会員)は、会費と別に年額 1000 円を負担する。」

### 7. 会費の値上げについて

金子次期会誌編集委員長より、学会としての活動を円滑に行うため、会員に一般会員と学生会員の区別を設け、一般会員の会費を現行の年額 2000 円から年額 3000 円に変更すること(学生会員の会費は現行の年額 2000 円のままとすること)が提案された。

これに関して質疑応答が行われた。学生会員とは「大学等の教育・研究機関に学生として在籍している会員」を指し、自己申告によって学生会員として登録されること、したがって、いわゆる社会人学生を含め、学生として以外の身分も持っけていても「学生会員」として登録してもかまわないこと(その逆に、学生であっても一般会員として登録してもかまわないこと)が確認され、会費値上げの提案が承認された。

これに伴い、細則第3条第1項の「会員は会費として年額 2000 円を納入するものとする。」を「会員は会費として以下の金額を納入するものとする。一般会員は年額 3000 円。学生会員は年額 2000 円。」に変更することが提案され、承認された。

なお、この改正は 2010 年 4 月 1 日に施行され、2010 年度の会費から適用されること、2010 年 3 月 31 日までに 2010 年度以降の会費を納入した会員は当該年度に不足分を納入することが確認された。

### 8. 2010 年度の運営計画について

西尾次期運営委員長より 2010 年度の運営方針について説明がなされ、承認された。主な内

容は、今期の活動で十分な基盤ができたものをさらに発展させるもの(2 点)および来期に新しく導入して学会としての活動を大きく発展させるもの(2 点)であり、具体的には、(1)事務局と広報局を統合して事務局とし、事務局を中心に学会運営体制の整備をはかること、(2)社会連携ウイングが主催する公開セミナーをさらに充実させること、(3)新たに会誌編集委員会を設置し、学会誌を創刊すること、(4)研究連携ウイングを再構成して学会にふさわしい研究企画の充実化をはかることの 4 点である。

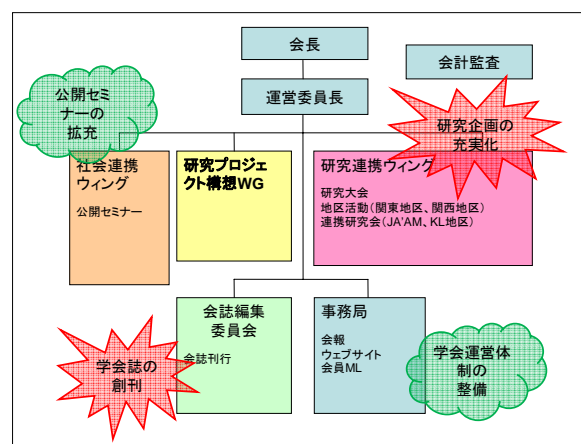
### 9. 2010 年度の研究大会について

金子大会委員より、次期研究大会は 2010 年 12 月頃の土曜日と日曜日に東京圏で開催すること、具体的な日時や会場は 4 月以降に通知することが提案され、承認された。

### 10. 2010 年度の予算案について

坪井次期会計委員より 2010 年度の予算案について説明がなされ、承認された。

以上



(参考)2010 年度の運営計画について